

嵯峨

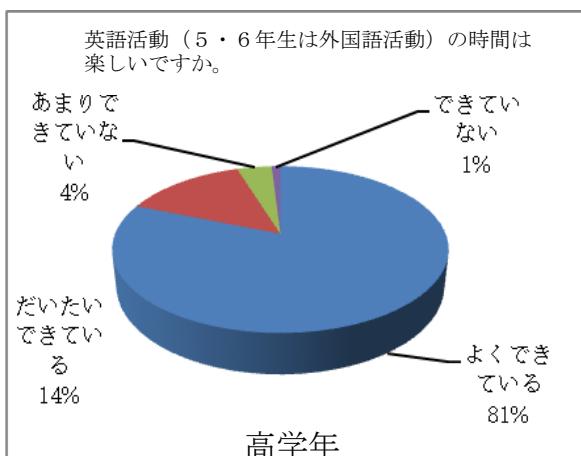
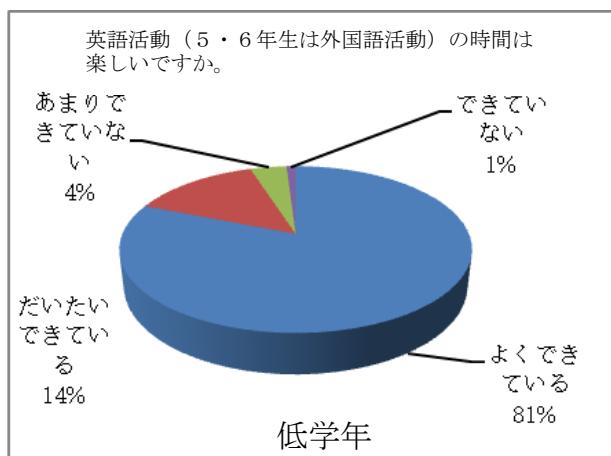


京都市立嵯峨小学校

嵯峨小学校の学校評価は、本校の指針である『嵯峨小学校の教育』に基づいて、各家庭と連携を図り、子どもたちの学びと育ちを実現できているかを考察し、今後の取組について具体的な方向性を示すためのものです。保護者の皆様からいただいたアンケートや児童のふりかえりも参考にさせていただいている。

＜平成26年度 第2回学校評価結果について＞ ～自分の思いを深め、豊かに表現し、ともに学び合う子～

豊かなコミュニケーションの育成

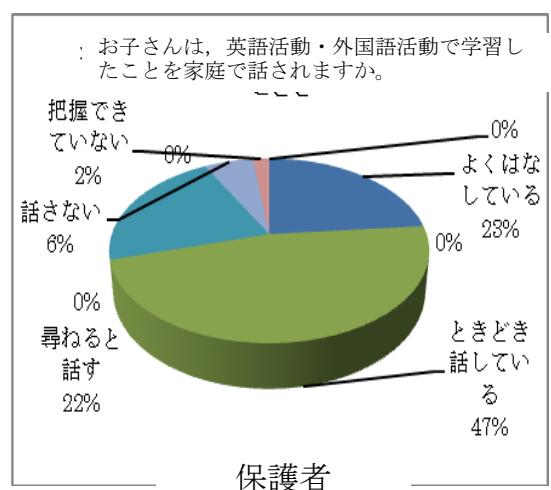


今年度、嵯峨小学校は、英語活動・外国語活動を通じて豊かなコミュニケーション能力の育成を目指して取組を進めてきました。児童アンケートでは、「英語活動・外国語活動の時間は楽しいですか」の質問に低学年95%，高学年94%の児童が楽しいと答えています。授業では、『気持ちのよいコミュニケーションを図る』ために、相手の「目を見る」「笑顔で話す」「ジェスチャーをする」「うなづく」等を意識して活動を行いました。

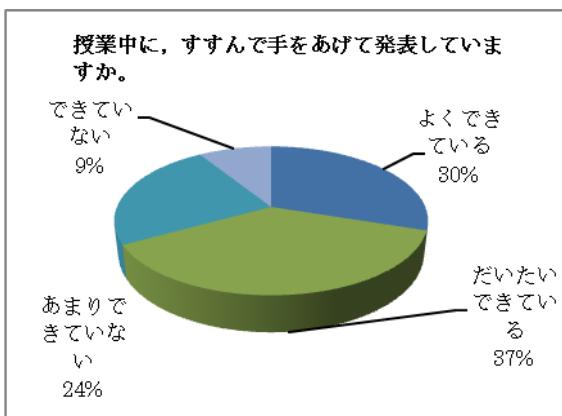
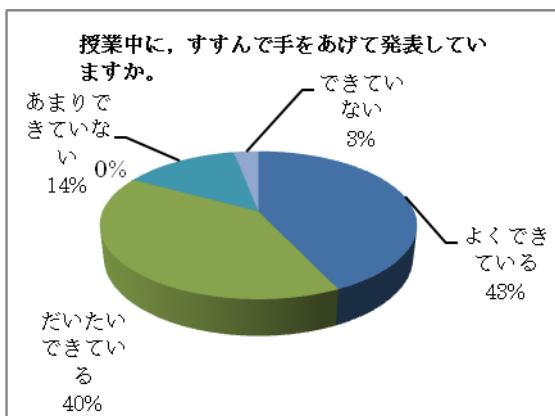
4月に行った『嵯峨学園英語活動・外国語活動アンケート』の「どんな時楽しいですか。」の問いに、英語を使った歌やゲームと答えた児童が多くみられましたが、11月のアンケートでは、友だちやALTとコミュニケーションを図ることにも楽しさが感じられるようになってきたと回答に変化が見られました。

また、「学校で学習した英語活動・外国語活動で学習したことを家庭で話されますか」の問い合わせには保護者の72%が「よく話す・ときどき話す」と答えています。

外国の文化や言語に触れたり、言葉の面白さに気付いたりするとともに、コミュニケーションが楽しいと感じられるように今後も研究を進めています。



話し合い活動



嵯峨小学校は、言語活動の充実を目指して、取組を進めています。自分の考えを表現し、友だちの考えを聞くことで自分の考えがさらに深まったり広がったりします。「すすんで手をあげて発表していますか」の質問には高学年児童の33%がすすんで発表できていないと答えています。二人組やグループの話し合いを効果的に取り入れるとともに、低学年の時期から音読や相手意識をもったスピーチ等、言語活動を工夫していきます。

3つの「あ」（あいさつ・ありがとう・あとしまつ）

数字は%

児童アンケート項目		そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
三つの「あ」	自分から進んであいさつをしていますか。	低学年 57	35	7	1
	高学年 57	36	6	1	
お礼の気持ちを「ありがとう」と相手に伝えていますか。	低学年 80	18	2	0	
	高学年 70	26	3	1	
使った物のあとしまつ(あとかたづけ)ができますか。	低学年 68	22	7	3	
	高学年 57	35	7	1	
保護者アンケート項目		できている	できるようになってきている	あまりできていない	全くできない
お子さんはあいさつができますか。		23	60	16	1
お子さんは、「ありがとう」と感謝の気持ちを相手に伝えることができていますか。		36	51	13	0
お子さんは、「あとしまつ」(かたづけ)ができますか。		15	38	42	5

あいさつ

人と人とをつなぐきっかけとなる「あいさつ」は、相手の顔が見えにくくなっている現代だからこそ、大切にしていきたいことばです。児童は低学年・高学年共に90%があいさつできていると答えています。これに対し保護者は、約10ポイント低い評価となっています。自分では「あいさつ」をしているつもりでも相手に伝わっていないこともあるのかもしれません。学校でも家庭、地域でも「あいさつ」ができるように根気強く取組を進めています。

ありがとう

児童、保護者ともに高い率で、できていると回答しています。

何かしてもらったときに「ありがとう」と自然に言えるのは、おそらく育ちの中で、子どもが周りの大人からその都度「たすかったよ。ありがとう。」「やさしいのね。ありがとう。」等と声をかけられてきたからだと考えられます。

あとしまつ

「あとしまつ」は、3つの「あ」の中で、児童、保護者共に実現度が低かった項目です。

児童の半数以上が「できている」と答えていたのに対し、保護者の評価は15%にとどまっています。

学校では、児童会を中心としてトイレのスリッパをそろえる取組を進めました。スリッパが乱れていたらそろえる児童が増え、どのトイレも以前に比べてきれいに並ぶようになりました。しかし、まず自分自身が後のことを見てそろえて脱ぐことが大切です。誰かに見られていなくても良いおこないができるように、心に届く教育を目指していきます。

子どもの学びと育ちを実現するために

<次年度に向けて>

前回のアンケートから、嵯峨小学校の児童が 地域や学校でがんばったことを、おおいに褒めるとともに、できていないことについては指摘し、「やらせ切る」厳しさも必要であると考えました。

確かな学力につけるための「豊かなコミュニケーション活動の充実」「規範意識の行動化」の実現に向けて、児童の意欲を喚起するような取組を探るとともに、今後も家庭・地域と連携しながら進めていきます。

学校関係者評価を学校経営に生かします

平成27年3月11日（水）に学校運営協議会を開催し、学校評価の内容についてご承認いただいた上で、その他学校運営につながる以下のようなご意見をいただきました。地域の皆様、保護者の皆様の支えがあって豊かな教育活動が実現していることに感謝するとともに、次年度の学校運営に反映させていきます。

☆ 自分の思いを深め、豊かに表現し、ともに学び合う子を目指して

- ・英語活動・外国語活動の授業を参観したが、子どもたちは、気後れせずに積極的にALTや友だちとコミュニケーションをとる姿が見られた。英語をはじめ外国語に親しむとともに、嵯峨や京都、日本のことについても学んでいってほしい。

- ・放課後まなび教室の指導者からは、文字の書き方（とめ・はね・はらい・筆順）に個人差がある。低学年のうちから丁寧に書くことを指導していく必要がある。

☆ 楽しい学校（自分らしくかがやく子）の実現に向けて

- ・「トイレのスリッパをそろえよう」という児童会の取組は、素晴らしい。子ども自身が意欲を持てるような取組を今後も進めてほしい。

子どもたちの学びと育ちを実現するために、地域・家庭・学校が力を合わせて取り組んでいきます。